

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 瀬戸市美術館【愛知・瀬戸】(<http://seto-cul.jp/information/index.php?s=161848114>)

4月17日(土)～8月1日(日)

せとものフェスタ 2021 瀬戸市美術館特別展：帰郷の輸出陶磁ー横山美術館収蔵名品展ー

平成29年(2017)に開館した横山美術館は、かつて陶磁器輸出の拠点のひとつであった名古屋市東区に位置し、明治・大正・昭和時代に制作された輸出陶磁器の「里帰り品」、約4,000点を所蔵する、日本有数の美術館です。理事長の横山博一氏によって、約20年もの歳月をかけて収集されたこのコレクションは、瀬戸焼や名古屋絵付をはじめ、隅田焼、眞葛焼、九谷焼、そして日本初の洋風食器であるオールドノリタケなど、多岐にわたる産地・技法を網羅します。本展では収蔵作品のうち、名品を選びすぐって展示。日本から遠く世界へと飛ばたき、世界を魅了した煌びやかな作品の数々をお楽しみください。



2. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波】(<https://www.mcart.jp/exhibition/e3301/>)

6月12日(火)～8月29日(日) ※展示替えあり

特別展：赤木清士コレクション 古伊万里に魅せられてー江戸から明治ー

赤木清士氏(1932～2019)は建設業を営む傍ら、神戸異人館街でランプと出会ったことをきっかけに、日本の灯火具や近代のものづくりと深くかかわる科学技術史資料の収集に情熱を注ぎます。1965(昭和40)年頃から収集を始めた陶磁器においても、鉄橋や電線が描かれた作品を特に愛好し、有田で作られた作品を中心に志田焼(佐賀県)や美濃焼(岐阜県)などを含む200点以上のコレクションを形成しました。本展では、氏が蒐集したコレクションを通して、江戸時代の古伊万里から、明治、そしてその後へと続く、うつわに描かれた図様の魅力を紹介します。



3. 三菱一号館美術館【東京・千代田】(<https://mimt.jp/kokuhou12/>)

6月30日(水)～9月12日(日)(会期変更) ※展示替えあり

三菱創業150年：三菱の至宝展

三菱を創業し、4代にわたり社長をつとめた岩崎彌太郎、彌之助、久彌、小彌太は文化財に多大な関心を抱き、その収集品は現在、それぞれ静嘉堂と東洋文庫に収蔵されています。彼らは当時の学者や芸術家とも交流し、その収集の態度は社会に貢献する広い視野を持ったものでした。本展では、初代岩崎彌太郎から小彌太に至る、芸術文化の研究・発展を通じた社会貢献の歴史をたどりつつ、静嘉堂、東洋文庫の所蔵する国宝12点、重要文化財31点を含む美術工芸品、古典籍などに三菱経済研究所の所蔵作品をあわせて貴重な作品群100点余りを展示します。また、本展は静嘉堂と東洋文庫の所蔵品が一堂に会する貴重な機会となります。

